



堤防の改修がまたれる国分川

岡豊地区公民館(田島一徳館長)では、地区のかかえる問題について話し合おうと十一月十三日、昭和五十三年一月に開かれて以来久しぶりに第二回目の「市政こん談会」を開きました。

この日は、地元から各部落の区長さんや青年団、婦人会、社会福祉協議会などの役員約三十名が、市からは小笠原市長や門田教育長、関係課長らが出席しました。

冒頭、小笠原市長は「みなさんのご意見を聞いて市政に反映したい」とあいさつ。あらかじめ取りまとめていた議題について、質疑

医大周辺の都市計画 地元のなつとくがカギ

岡豊地区
市政こん談会



主な内容は……

問い・学校教育、社会教育についての市長の基本的な考えは……。

答え・専門家ではありませんが、国や郷土を愛する心を教えるよう検討する時期ではないかと思う。道徳を重んじ、日本人らしい日本人をつくる教育を考えたい。

問い・岡豊小学校の増築計画は。答え・医大関係で生徒が増えることは間違いなく、五十九年度には一学級増えることは確実です。

できれば、五十七年度にやる計画をたてているが、今年度、太籾・久礼田小の増築案、香長中の防音工事を行っている関係で、市の持ち出し分が一億円以上になることになっている。財政が苦しい状態の中で、岡豊小学校の増築案がで

きるかどうか、今のところはつきりしません。

ただ、五十八年度までに実施しないと、用地購入費の補助金がつかなくなるので、遅くとも五十八年度までに実施したい。

問い・県道八幡・大津線は、タン

プなど大型自動車の交通量が多く危険だ。南部の生徒は、やむを得ずバス通学をしている。子どもの健康面や教育面からも、通学路の整備をしてほしい。

答え・通学路は、道を広げてやると車が通るようになって、通学路にならなくなるので、そのような整備はできるだけしたくない。適当な道があれば、調査し、検討してみます。

問い・国分川の堤防の改修の見通しは……。

答え・小蓮橋上流の改修は、五十六、五十七年度で調査、五十八年度に設計、地元協議をするよう進めている。工事着工は、六十年以降になるだろう。今の計画では、川底幅が八五、堤防から堤防までの幅が一三・八メートルです。

問い・医大前の残してある堤防の取り壊しは……。

答え・県へは何回となく要望してあるが、下流への影響に問題があり、すぐにはいかないようだ。

問い・岡豊山(うまや床周辺)の

開発は、山全体の美観もそこなわれるし、史跡保存面からどうかわると思う。市の指導体制を聞きたい。

答え・山地一〇以上の開発には許可がいるが、法律違反をしていない場合はなかなか規制できない。岡豊山の開発の場合、どうも地元が推進してきた経過もあって、規制ができなかった。安全面の指導はしている。

文化財の保護は、国の指定を受けて納をかぶせれば開発の規制はできます。

問い・将来、医大周辺は市街化区域にならざるを得ないだろうと思っているが、説明会や視察などで勉強するたびに、実現不可能だと痛感する。現実的な市街化計画になるよう、もっと市は力を入れてほしい。

答え・都市計画は、地域(地元

が主体になってやらなければできないことです。区画整理事業による組合施行の方法が考えられるが、市は組合施行を期待しています。組合施行の場合、地権者の方々の一番の悩みは、道路、公園などで減歩(十センチ程度)があることだと思ふ。

市は、コンサルタントに調査を依頼、一応の構想は持っているが、市も県も土地を買収して街をつくる力はありません。地元の協力によって進めてもらいたい。

問い・国道三十二号や県道でないなど、空カンのポイ捨てがひどい。ジュースなどの空カンの回収の条例制定について、市の考え方は。

答え・京都市府が実施しているデポジット方式(空カンの処理代金をメーカーに負担してもらう)などの例があるが、条例制定には、いろいろな問題があります。カン公害防止には、基本的には人間のモラルしかない。

問い・東パイバスができることによって、国分川以北で水害がおこるおそれのある所ができる。排水の問題は慎重におねがいたい。

答え・東パイバスは建設省の直轄事業で、市からはつきりした答えはいえませんが、水処理問題は、水害のおこらないよう工法的に十分な配慮をしていると聞いています。